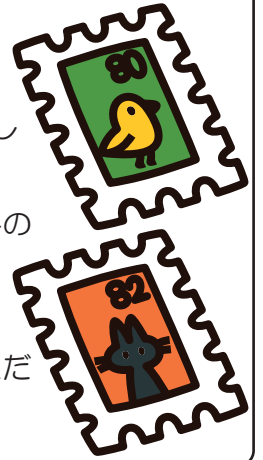


古切手、ありがとうございました！

先日、みなさまから回収のご協力頂きました「古切手」を新潟市社会福祉協議会に寄贈いたしました。

古切手は切手愛好家に販売され、その収益は社会貢献に使われます。当社では今後も古切手の回収を行ってまいりますので、ご協力いただける方は、当社スタッフまでお声がけ下さい。

なお、社協の職員さんに、「他に何か収集していますか？」と聞いたところ、「入れ歯(金属入り)」を集めているとのことでした。こちらは当社では回収いたしませんので、直接お持ちいただければと思います。



「Eco列車でいこう！」～第93回 市振、姫川温泉、「灯の回廊」～ (CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！)

紀行文の傑作とも言える松尾芭蕉の「奥の細道」。

この中に、新潟県最西端の集落、市振(いちぶり)が登場している。

「鼠の関をこゆれば、越後の地に歩行を改て、越中の国一ぶりの関に到る。」

2月25日、越後線、信越線、えちごトキめき鉄道を乗り継いで、「市振」に到着したのが10:54。まずは富山県方面に歩く。

2月とは思えない、汗ばむような快晴。遠くに北アルプスの山々を望みながら、15分くらい歩くと県境だ。富山県朝日町に一步踏み入れて、目的達成。駅方面に戻る。駅から逆方向に進むと、市振の集落がある。芭蕉は1689年この地にあった「桔梗屋」に宿泊し「一家(ひとつや)に 遊女も寝たり 萩と月」という歌を詠んだ。ちなみに良寛も後年、この地に宿泊し、「市振や 芭蕉も寝たり おぼろ月」と詠んでいる。今日の市振はおだやかな漁師町であった。

再び電車に乗り、「糸魚川」には昼過ぎについた。大火の爪痕を残す街なかを散策し、弁当を買って大糸線「南小谷」行に乗車する。2両のディーゼルカーは、暴れ川の異名を持つ「姫川」に沿うが、今日は穏やかな流れだ。

「平岩」で下車し、徒歩5分で姫川温泉へ。平岩駅は新潟県にあり、姫川温泉は長野県にあるので、またしても徒歩で県境越えをする。

日帰り温泉「瘡(くさ)の湯」は豪快に源泉が掛け流されていた。ひと風呂浴びて、広間に座ると、おばさんがお茶とゆでたまごをサービスしてくれた。とてもアットホームでくつろぐことができた。

糸魚川、直江津で乗り継いで、ほくほく線の「うらがわら」駅には17:15に到着した。道路沿いに雪灯籠が続くイベント、「灯(ともしび)の回廊」を見るためにシャトルバスに乗る。旧月影小学校で下車し、1000を超える灯籠を見ながら、地酒「雪中梅」を飲む。その後、いろいろな集落でバスを降りて「手打ちそば」を食べたり、地元のおじさんにお酒をごちそうになったりして、十日町経由で帰途に着いた。

【2月25日(土)】

新	湯	5:56
吉	田	6:47
		6:52
柏	崎	8:06
		8:57
直	江	9:40
		9:45
市	振	10:54
		11:58
糸	魚	12:17
		13:10
平	岩	13:45
		15:07
糸	魚	15:46
		15:48
直	江	16:31
		16:57
う	ら	17:15
		20:03
十	日	20:26
		20:50
越	後	21:18
		21:21
長	岡	21:44
		22:04
新	湯	23:19

